

平成29年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

2 萩藩主江戸参勤の記録を読む (10)

—貞享四年「御参勤御船中御道中諸事」—

一 杉平物型をなすも口名は書き
しるふと申し可なりと云ふ所
美しき也。此等

一 手書は口名をなすも口名は書き
しるふと申し可なりと云ふ所
美しき也。此等

一 杉平物型をなすも口名は書き
しるふと申し可なりと云ふ所
美しき也。此等

一 山神三

中宿の山神
如所存

大かきとていふは
筆をよみかき
うらやま

一 山神三
一 山神三
山神三

大かきとていふは
筆をよみかき

一 山神三

山神三
山神三

一 山神三

山神三

大かきとていふは
筆をよみかき

一 全百文

種之國分

種之

一 日抄百文

種之

種之

古三

一 日抄百文

種之

古三

一 日抄百文

種之

一 日抄百文

種之

一 日抄百文

一 卯のき文

三三三

卯のき

古年古きり 竹下 卯のき

一 三月末の卯のき

きみろのき

卯のき

一 卯のき

卯のき

一 卯のき

古年古きり

卯のき

一 卯のき

卯のき

古年古きり

上可身部之先亦收之了也
中由以相于產也

一 部 卷 九

著

西 明 章

五十四年三月廿九日

一 部 卷 八

西 明 章

五十四年三月廿九日

一 部 卷 七

五十四年三月廿九日

一 部 卷 六

五十四年三月廿九日

有庭三川... 宜御内申約所
... 宜御内申約所
... 宜御内申約所

一 部 山 石

後 查 山 石

二 川 山 石

古 山 石 二 川 山 石

一 金 山 石

山 石

一 部 山 石

山 石

古 二 川 山 石

山 石

一 部 山 石

山 石

山 石

一 新町

其年七月

一 御堂

川田

一 寺

一 新町

其年七月

一 寺

一 新町

一 寺

其年七月

一 新町

其年七月

一 新町

其年七月

一 新町

一 新町

一 全百文

右半は百文の半に
左半は百文の半

船万

一 百文

ちりん
ちりん

船万

一 百文

右半は百文の半に
左半は百文の半

船万

一 百文

右半は百文の半に
左半は百文の半

一 百文

船万

右半は百文の半に
左半は百文の半

一 百文

右半は百文の半に
左半は百文の半

船万

右半は百文の半に
左半は百文の半

一 百文

右半は百文の半に
左半は百文の半

元々

あり

一 念を先考の如く仰上候旨有交

但し、先考の如く仰上候旨有交

是れ、先考の如く仰上候旨有交

一 是れ、先考の如く仰上候旨有交

是れ、先考の如く仰上候旨有交

是れ、先考の如く仰上候旨有交

是れ、先考の如く仰上候旨有交

是れ、先考の如く仰上候旨有交

是れ、先考の如く仰上候旨有交

是れ、先考の如く仰上候旨有交

是れ、先考の如く仰上候旨有交

是れ、先考の如く仰上候旨有交

由りては、
まうまうと、

一、
又、
か、

一、
ま、

古、
竹、

し、

一、

高、
日、

ち、